

グループ経営に対応する 内部監査の実施方法を整備する

「経営を支える内部監査の8つの重点課題とその対応策」〔第7回開催分（全8回開催）〕

- 日時 ● 2015年6月9日（火）14:00～17:00
- 会場 ● 東京・麹町 企業研究会 『セミナールーム』
- 講師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人

大手監査法人における約20年の会計監査への従事と10数年にわたる内部監査、内部統制、不正調査、リスク管理等のアドバイザー業務の経験を経て、2012年、新日本有限責任監査法人シニア・パートナーを退任。現在、ABボロボのコーポレートオーディット日本担当ディレクターおよびUDトラックス株式会社 監査役として内部監査の統括及び監査実務に従事。一方で内部監査関連の執筆、講演活動にも従事。最近の著書に『内部監査の課題解決法 20』税務経理協会。公認会計士、公認内部監査人、米国公認会計士（現在 inactive）。

●プログラム●

●講演ノグループ経営に対応する内部監査の実施方法を整備する <14:00-16:00>

大企業の監査には、ビジネスの多角化・グローバル化、組織の階層化、ガバナンス構造の複雑化等に伴って様々な監査対応が必要となります。このテーマは年次計画への対応（第3回）や海外監査対応（第6回）および経営監査（第8回）という面からも扱いました。今回はそれ以外に重要と考えられる本社管理部門への対応をリスク管理やアシュアランスの協調という面から検討します。続けて、グループ企業監査への対応として、グループ各社をカバーするCSA（統制自己評価）手法やデータ分析の利用あるいは部門横断的なコンサル的なテーマ監査の導入などを取り上げます。これらの課題には、IIA ポジションペーパーにあるように企業としてリスク管理における3つの防衛ラインをいかに最適化するかという側面も含まれます。更に内部監査では例外扱いとなりやすい研究開発部門や技術部門への監査対応を事例を踏まえて解説いたします

1. 本社の管理部門への対応—内部監査部門との関わり方の整理と監査方法の決定
 - ①リスク管理機能としての本社部門の認識と内部監査との協調 ②リスクマネジメントへの監査対応 ③ガバナンスの監査、アシュアランス・マップの検討 ④3つの防衛ラインにおける内部監査の最適化、他
2. グループ企業への個別監査と部門横断的な監査の取り組み
 - ①個別監査のパターン整理（業務プロセス監査、経営監査、準拠性監査等）と監査戦略 ②買収企業への対応等 ③CSA（統制自己評価）やデータ分析等の手法を活用した付加価値の向上の例 ④テーマ監査による部門横断的なコンサル的な監査の展開の例
3. 研究開発・技術部門への監査対応
 - ～本格的内部監査の適用外となりやすい研究開発・技術部門等に対する監査対応の例

●講演をベースとしたディスカッション&総括コメント <16:00-17:00>

～参加各社の対応事例や現状の問題意識をシェアする中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	28,080円	一般	31,320円
-----	---------	----	---------

[本体価格 26,000円 本体価格 29,000円]

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。
折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。
※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社） 企業研究会

担当) 居代 E-mail: ishиро@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516 / FAX 03-5215-0951 ~ 2

140188	2015 6/9 経営を支える内部監査の8つの重点課題と～		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			